

赤字：R8年度で修正
削除は取り消し線

不登校の未然の防止や初期対応に努めるために、「報告・連絡・相談・報告」の機能を徹底させ組織的な体勢で取り組むことを基本とする。「誰もが知り、誰もが動く。」を合い言葉に

本人	学級担任及び学年部	学校
<p>授業日：欠席1日目</p> <p>何かのサインが出ている例</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻や早退が多い よく体調不良を訴える 月曜日や週明けの欠席が多い 表情が暗い 一人で過ごすことが多い 情緒不安定で落ち着きがない <p>↓</p> <p>【原因と思われること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学業不振 ●友人関係のトラブル ●家庭環境の変化 ●教師への不信感 <p>↓</p> <p>★主任者会において（定期的な会）</p> <p>○欠席が多い生徒等、気になる生徒の様子を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席日数 欠席理由 学校生活の様子等 	<p>状況A：朝、保護者からリーバーで、欠席連絡があった場合</p> <p>①欠席の理由、様子を確認する。（全職員） （確認）担任及び養護教諭 ※欠席理由が病気の場合でも、不登校の兆候について考える。 （報告）担任→学年主任 ★学年主任と養護教諭 ダブルチェック 養護教諭→校長、教頭、教務への連絡</p> <p>②必ずその日のうちに、電話で保護者に様態の確認をする。 クラスルームで配布物の確認、明日の予定、諸連絡等を伝える。 （報告）担任→学年主任→校長、教頭、教務への連絡 ※養護教諭への連絡</p> <p>状況B：8:00の時点で、保護者からリーバーの連絡がなく、登校していない場合</p> <p>①担任は職員室に連絡を入れ、リーバーの連絡有無を再度、確認する。 ↓ （報告）担任→学年主任、養護教諭への連絡→校長、教頭、教務への連絡</p> <p>②担任、または学年主任は直ぐに、学校から保護者へ電話連絡をする。 ↓ 自宅にいなければ職場などの緊急連絡先へ。</p> <p>③連絡がつかない場合は、学年主任が家庭訪問をし、安否を確認する。 ↓ ※担任は学級の指導 （報告）学年主任→校長、教頭、教務、生徒指導主事への連絡 （安否が確認できない場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長、教頭、生徒指導主事に連絡をする。 →対応策の検討（必要に応じて関係機関との連携） 担任と学年主任が放課後、家庭訪問をし、欠席理由を確認する。（直接面会） （報告）学年主任→校長、教頭、教務、生徒指導主事への連絡 <p>※安否が確認できた場合についても家庭訪問実施後、生徒の様子、連絡の状況等を報告する。（保護者等から確認すること。本人の様子を確認すること。）</p> <p>状況C：保護者、又は本人から「学校に行きたくない」という心意的な原因で欠席連絡があった場合</p> <p>①担任は学年主任、生徒指導主事に状況を報告する。学年主任・生徒指導主事は、管理職や養護教諭に状況を報告する。 ↓ ※原因の把握と対応を組織的に行う。</p> <p>②学校は、学年部、生徒指導主事、養護教諭と連携して、生徒や保護者が相談できる環境を整える。担任及び学年主任（必要に応じて関係職員）は、生徒や保護者と面談し情報収集を行う。（相談場所や一時登校場所として、保健室や被服室などの別室を想定）</p> <p>（報告）学年主任→校長、教頭、教務、生徒指導主事への連絡</p> <p>（登校しなかった場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任、学年主任はその日のうちに家庭訪問をする。生徒や保護者との面談を通して具体的な状況を把握する。内容により、対応の仕方は異なる。 <p>（報告）担任→学年主任→校長、教頭、教務、生徒指導主事、養護教諭への連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の健康状態などの様子を確実に把握する。 情報の正確な把握と共有を進める。 <p>（朝読書前、朝の会時）</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康観察、リーバー心の健康観察チェック等により常に生徒一人一人の様子を観察し、変化に気付くように努める。 大小に関わらず変化が見られた場合は声掛けと観察をする。 <p>※主任が不在の場合、級外が対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年主任が連絡をする。 <p>※家にいない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭調査表または緊急連絡表から保護者以外へ連絡を取る。 市教育委員会へ一報入れる。 <ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に生徒指導主事、校長教頭、教務、養護教諭で対応を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会へ、その後を報告 ①「確認できた」 ②「未確認」→警察へ報告、捜索依頼 <ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に生徒指導主事、校長教頭、教務、養護教諭で対応を考える。
<p>授業日：2日間連続欠席</p> <p>↓</p> <p>状況C等の場合、不登校対策委員会として位置づける。</p>	<p>状況A：保護者等からの連絡があった場合</p> <p>1日目に準ずる ※欠席理由が病気の場合でも、不登校の兆候について考える。 ※出席停止や明らかに病気や怪我が理由の場合以外は、電話連絡で家庭訪問の確認を取り、訪問を実施する。（担任と学年主任とで対応） →直接面会し、保護者・本人と話す。</p> <p>状況B：8:00の時点で、保護者からリーバーの連絡がなく、登校していない場合</p> <p>1日目に準ずる</p> <p>状況C：不登校の兆候が見られた場合</p> <p>（報告）担任→学年主任→校長、教頭、教務、生徒指導主事、養護教諭への連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に生徒指導主事、校長教頭、教務、養護教諭で対応を考える。 <p>※必要に応じてSC、不登校対策支援員の協力を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容によっては、家庭訪問に教頭が同行する。 重大な内容はその場で判断せず学校へ持ち帰って組織対応につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> 学年主任を中心に生徒指導主事、校長教頭、教務、養護教諭で対応を考える。 <p>不登校対策委員会の対象生徒として情報共有及び対応を検討する。</p>
<p>授業日：3日間以上連続欠席</p>	<p>※保護者、本人と相談の上家庭訪問を継続し、体調や様子を把握、及び声掛けを行い、登校時には、教育相談を実施する。その際、生徒の様子を記録する。</p> <p>以下の表1内容を参考に表2内容に該当する生徒は、不登校対策委員会の審議の基に、不登校調査記入対象者とする。</p> <p>表1（不登校）年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由を除いたもの （不登校相当）欠席日数+保健室等登校日数+(遅刻早退日数÷2)=年30日以上</p> <p>↓</p> <p>表2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1か月7日以上欠席があった生徒 ②累計欠席日数が30日以上の子生徒 ③週3日以上保健室(等)登校が2週続いた生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策委員会でSC、不登校対策支援員、外部機関等とも連携を取り、対応を考える。